出 張 調 査 報 告 書

令和元年８月25日

松伏町議会議長　川　上　　力　様

会　派　名　　公明・新自民の会

代表者氏名　　荘子敏一

下記のとおり先進地視察を完了したので報告します。

記

１　期　　日	令和元年７月３０日から令和元年７月３１日まで
２　視　察　地 及び日時	（1）　鹿児島県大崎町　　７月３０日 （2）　鹿児島県鹿児島市　　７月31日
３　視察目的	（1）　ごみのリサイクル工場の取り組み （　大崎町　） （2）　道の駅「桜島」 （鹿児島市）
４　視察者氏名	荘子敏一 堀越利雄 川上　力 山崎隆一郎

行政視察日程

７月３０日（火）

南越谷集合出発	０５：４５	東武鉄道・営団地下鉄・JR 東日本 東京モノレール 運賃　4,560 円
羽田空港・第１ターミナル　着	０７：１０	
羽田空港　発	０８：０５	JAL６４３便 航空券・宿泊パック　186,000 円 国内旅行保険　2,800 円
鹿児島空港　着	０９：４５	
	１０：００	九州レンタカー　鹿児島空港営業所 基本料金　パック料金に含む
りおリサイクルセンター　着	１３：００	りおリサイクルセンター視察研修 住所： 鹿児島県曽於郡大崎町菱田 1218-48 電話： 099-471-6050
りおリサイクルセンター　発	１５：００	
最終処分場・堆肥工場	１５：２０	
鹿児島市内　宿泊	１８：００	ベストウエスタンレンブラントホテル鹿児島 人数：4 人　朝食付　(1 室 1 名様) 室数：4 室 客室：【禁煙】シングルルーム×３ 【喫煙】シングルルーム×１

７月３１日（水）

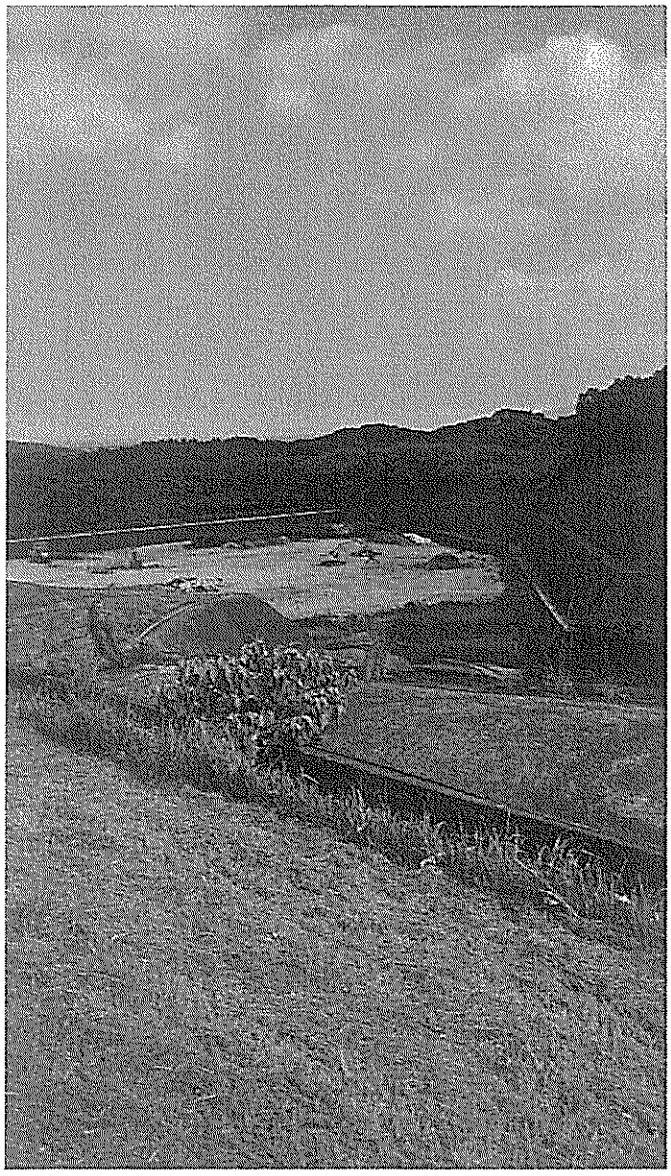
ホテル　チェックアウト	０８：３０	
鹿児島港～桜島	０９：００	桜島フェリー 道の駅桜島　視察
鹿児島空港　着	１２：００	
鹿児島空港　発	１２：４０	JAL６４６便
羽田空港　着	１４：２５	
羽田空港　発 押上駅　発	１５：０２ １５：４５	エアポート快速特急（成田空港行） 京浜急行・都営地下鉄 東武鉄道急行（南栗橋行） 運賃　4,120 円
新越谷駅　着	１６；１０	解散

視察事項の結果

１．鹿児島県大崎町リサイクルセンター
ごみのリサイクル工場の取り組み

研修事項
リサイクル率８２％　12年連続日本一の理由

「大崎町には、ごみ焼却施設が無い」これがリサイクル率８２％を生んだ。


（最終処分場遠景）

大崎町も以前は、全てのごみを一括して最終処分場に捨てていた。その弊害で悪臭、カラスや野生動物が徘徊する劣悪な環境だった。それに加え、最終処分場が満杯になる現実があった。

そこで、焼却施設の建設や新たな最終処分場の建設ではなく、既存の最終処分場の延命化を選び取り組み始めた。

そこで大崎町では、ごみの２７品目にわたる分別化を決め、住民に協力を求めた。その数１５０地域で４５０回！その他に地域リーダーに研修会も行った。

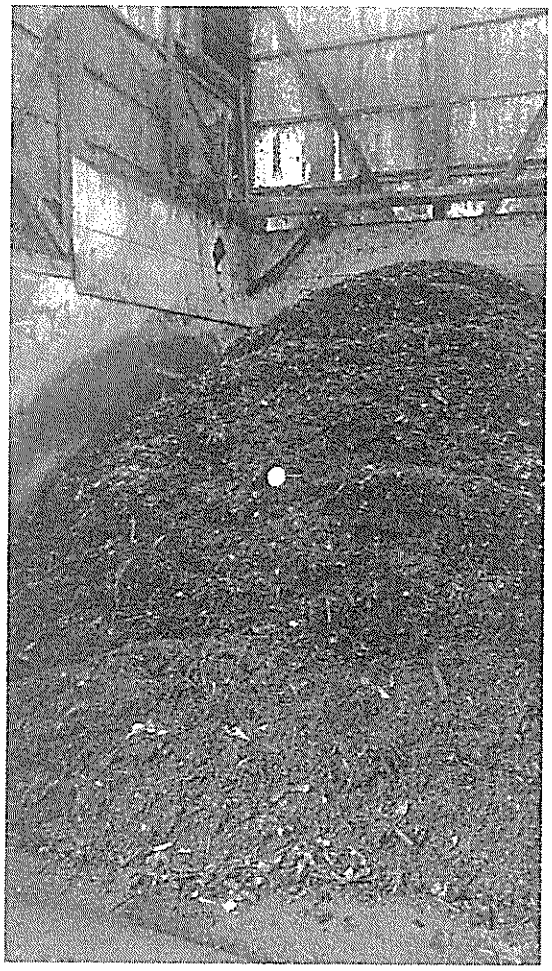
さらに、リサイクルセンターでは、いろいろな「ごみ」の再資源化に必要な機械を導入し、「ごみ」の最終搬出先を確保した。

＜註＞大崎町では「ごみ」と言わず、「資源」と言っている。

特に、包装プラスチックと木製品や畳を混ぜて燃料を作っている機械に感心した。

その他にペットボトルはまとめて外部業者に出したり、廃油はごみ収集車の燃料に作り替えていた。

さらに、平成１６年から、有機物（生ごみ・草木）の埋め立て全面禁止にして、最終処分場に持ち込む「ごみ」を大幅に減らした。有機物は全て堆肥工場に持ち込み、



一括して堆肥にしていた。その堆肥は菜の花畑で使い、菜種油を作るエコプロジェクトが完成している。

そのため、最終処分場に捨てる「ごみ」はピーク時の１７０００トンから３０００トンに減っている。

（堆肥工場）

ごみの焼却かリサイクルか

松伏町は東埼玉資源環境組合で、ごみを焼却処分する方針で今日まで来た。リサイクルは、分別の徹底、頻繁な分別収集、資源の一時保管、リサイクル化の危機の整備、再資源をしてくれる出口の確保、等々の経費が掛かる。

松伏町のリサイクル率は１１％程度だが、それを大きく変えるのは難しい。といっても、最近の二酸化炭素の排出量削減という世界規模の課題に、背を向けてよい時代だとは思えない。

現在、疑問に思わずに償却ゴミに出している中から、リサイクルに取り組むべき品目を選び、もう一度ごみの排出を考えるときだと思う。

２．道の駅「桜島」火の鳥めぐみ館

道の駅の運営

鹿児島市内からフェリーに乗って１０分。桜島に渡るとすぐのところに道の駅「桜島」火の鳥めぐみ館がある。

ここの見どころは、なんといっても世界有数の活火山『桜島』だ。

溶岩原を縦貫する溶岩道路の入り口に立地し、たくましく噴煙をあげる大迫力の桜島を間近に見ることができる。店頭に火山岩で出来た「軽石」を売っていた。あとは桜島大根。チップ状にしたお菓子など種類も豊富だった。

何か特徴を出し、他の道の駅との差別化が必要だと感じた。松伏町は何を前面に押し出すのか、今後の検討課題だろう。

３．議員の感想

鹿児島県大崎町ごみのリサイクル工場　視察報告

公明・新自民の会　堀越利雄

令和元年７月３０日と３１の両日、公明・新自民の会４名は鹿児島県大崎町のごみのリサイクル工場の取り組みと、道の駅「桜島」火の鳥めぐみ館を視察した。大崎町は、ごみのリサイクル率８２%で２７品目分別しており、１２年連続日本一の実績がある。資源リサイクルの原動力は「混ぜればゴミ、分ければ資源」を合言葉にした資源循環型の強固な取り組みにあった。

最初に大崎町リサイクルセンターで現地担当者から説明を受けながら、施設を視察した。近隣自治体を合わせると１０万人の資源ゴミを取扱い、４０人程の雇用が生まれているとのことだが、作業中の人たちの表情が黙々ときびきびしている姿に驚いた。また、リサイクルセンターでのペットボトル、アルミ缶、金属類、廃油、古着、粗大ゴミのタンス、下駄箱、家具類などが、整然とリサイクル作業が行われ、再生される工程は日本一のリサイクルの町に相応しいものであった。

その後、リサイクルセンター内の事務所で大崎町の宮本議長から挨拶と大崎町の概要説明があった。次に、大崎町住民環境課主事の東平氏から、大崎リサイクルシステムのはじまりから今日までの説明が行われた。焼却炉の建設には建設費、維持費の問題があり、新たな埋め立て処分場の建設は周辺住民の反対があり、最終的に既存の埋め立て処分場の延命化のため、資源のリサイクルシステムを選択した経緯があった。このシステムを実現するためには「住民」、「行政」、「企業（リサイクルセンター、収集業者)」が連携、指導、理解、信頼が必要であり、地域への説明会は４５０回行っている。

その結果、埋め立てゴミの量は８４%削減され、今後４０～５０年は大丈夫という埋め立て処分場の延命化を実現できた。また、大崎町は１人当たりのゴミ処理経費の削減によ

り、全国平均の約半分の経費である。
　翌日（３１日）は鹿児島市内、道の駅「桜島」火の鳥めぐみ館を視察した。フェリー乗り場から徒歩５分。桜島大根、桜島小みかんなど、桜島の特色を活かした特産品、土産品が多く、また、火の鳥めぐみ館併設の食事処「おふくろの味、旬」もある。地域色の強い道の駅といえる。

公明・新自民の会　川上　力

鹿児島県大崎町のゴミのリサイクル率が、驚きの 80%以上とのこと。その発想のスタートが、「可燃ごみか不燃ごみ」ではなく、「リサイクル出来るものか、できないもの」であり、大変なカルチャーショックを受けました。 可燃ごみとしている、生ゴミを剪定枝と混ぜて堆肥にしていました。 施設も簡便で、松伏町でも可能かと思います。
もうひとつの驚きは、廃棄物処理を、リサイクル事業として、民間がすべてやっていること。リサイクル設備を含め民設民営であり、補助金などは出ていない。適切な処理委託、運搬委託だけで済ませている。それによって、廃棄物処理の原価は全国平均の約半分である。さらにリサイクルに伴う売価を原資に、奨学金制度も行っていて感心した。

公明・新自民の会　山崎隆一郎

30 日：鹿児島県大崎町リサイクルシステム
人口 13,062 人、世帯数 6,718 世帯（平成 27 年度）の小さな町が、ゴミリサイクル 82％で 12 年連続日本一を誇っている実情。その内容が現地でお話しをお聞きして解りました。

まずは、ゴミへのアプローチの違いが発端でありました。
ゴミは焼却炉で燃やして処理をするとの考えが私にもありましたが、大崎町では、ゴミは埋め立てて処理するのですが、その埋立処分場の残余年数が逼迫し、3 つの選択肢の選択を選ばなくては行けない状況に。１は焼却炉の建設＝建設費・維持費の問題で却下、２は新たな埋め立て地を建設＝周辺住民の反対で却下、３に、既存の埋立処分場の延命化への道を歩むことになります。そして、行政と企業と住民のリサイクルシステムを構築、
混ぜればゴミ、分ければ資源に基づいて、27 品目の分別を行っています。
ペットボトル・プラスチック・天ぷら油・蛍光灯・発泡スチロールなど、分別資源の各資源化への専用機器の整備が整っていることが、大きく貢献しています。
また、生ごみのリサイクルは店舗での生ごみも回収し選定枝などを含めて、再資源化の腐葉

土の販売も行い、このことが、82％のリサイクル率の内容が解りました。

松伏町の建設中の中間処分場では、ゴミの処理は燃やす考え方では、発送が浮かばないところですが、分ければ資源の考え方は学ぶべきところが多いと思います。
分別ごみの推進が、焼却処分費の削減には必要で、大きく貢献することになります。

31日：桜島の道の駅への視察
施設の内容は、地場の物産品販売・レストラン・休憩、トイレなどの内容で、道の駅では基本的な内容は同じでした。目玉となる物産は、鹿児島の観光地ですので多くあり観光客での集客は大きいと感じます。

松伏町の道の駅計画では、観光地でもない当町で目玉となるような観光資源が無く、カレーによる町おこしを行っていますが。カレーは所々で多く存在し、競争が激しいと感じ、町がどれだけアピール出来るかが、ひとつの鍵になると感じます。